

# 家康外交「中立貫いた」

徳川みらい学会 西欧側史料で解説

徳川みらい学会は16日、2022年度第1回講演会(静岡商工会議所、静岡市共催)を静岡市葵区で開いた。「家康公が俯瞰(ふかん)した地球儀」を統一テーマに、国際日本文化研究センターのフレデリック・クレインス教授と東京大史料編纂(さん)所の黒嶋敏准教授が、天下統一後に家康が直面した外交問題を解説した。クレインス教授は、家康が欧州の国王らと



徳川家康の外交を取り上げた徳川みらい学会の講演会＝静岡市葵区

「カトリック国に加え、外  
交手腕を掘り下げた。と、日本に宗教対立  
「カトリック国に加え、外  
交手腕を掘り下げた。と、日本に宗教対立  
交わした書簡など西  
欧側史料をもとに、外  
交手腕を掘り下げた。と、日本に宗教対立  
交わした書簡など西  
欧側史料をもとに、外  
交手腕を掘り下げた。と、日本に宗教対立

諸国からの相手方の追  
放や攻撃許可の請求  
などを、家康がうまく  
かわした返信を紹介。  
「反感を招かない、中  
立路線を貫いた」と評  
した。

黒嶋准教授はアジア  
外交について取り上げ  
た。「家康の外交開始  
は豊臣秀吉の死去翌  
年」とし、秀吉同様に  
明による「日本国王」  
冊封を目指した海洋戦  
略を説明した。「派手  
な武力で朝鮮出兵し、  
日本国王という果実を  
得た秀吉によって方向  
性が規定された中、朝  
鮮や明との和睦を図つ  
たのは難しい方程式だ  
った」とした。